

1. はじめに

近年の県内における公共用水域の常時監視結果では、人の健康の保護に関する項目について、すべて不検出であり、環境基準に適合している。

また、生活環境の保全に関する項目についても、有機汚濁の指標である生物化学的酸素要求量（BOD）で、概ね良好な結果を得ている。

しかしながら、魚類のへい死事故が中小河川等で発生しており、へい死事故の原因を究明し、防止対策を講じていく必要がある。

このため、これまでのへい死事故の調査事例、室内実験および文献等を基に、へい死事故時に対応すべく、手引書を作成したものである。